

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。

この度の東日本大震災により被害を受けられた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地が一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。



財団法人 電源地域振興センター
理事長 新 欣樹

この度の東日本大震災とそれに引き続く福島第一原子力発電所事故により、今もなお厳しい避難生活を余儀なくされている皆さま、お仕事を失われた皆さま、愛する肉親を失われた皆さまに心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。

あの日東京で体感した大地の振動は、かつて経験したことがないものであり、三陸沖震源の報を聞いた瞬間、東日本太平洋沿岸地域の無事を祈らずにはいられませんでしたが、その後次々に目に飛び込んでくる報道映像の信じられないような惨状には茫然かつ暗澹たる気持ちにさせられました。

当センターでは、直ちに臨時役員会を開催して被災地への緊急支援事業を立ち上げ、通信手段が思うように機能しない中で避難されている地域との連絡を図りつつ、必要物資を調達の上搬送する

とともに、避難されている各市町村の相互連絡に役立つ情報や、新聞の切り抜きコピー、原子力事故対応に係る諸情報等をファックス、インターネット等の方法により適宜提供させていただくなどいたしました。

今後とも引き続き、復旧復興への道を歩まれる皆さまのお役に立つよう緊密に連携を取らせていただき、出来ることは何にでも取り組んで参りたいと考えております。

皆さまがこの困難な時期を乗り越えられ、元どおりの平穏な生活を取り戻される時が一日でも早く訪れるよう、全国の電源地域の方々と共に願っております。

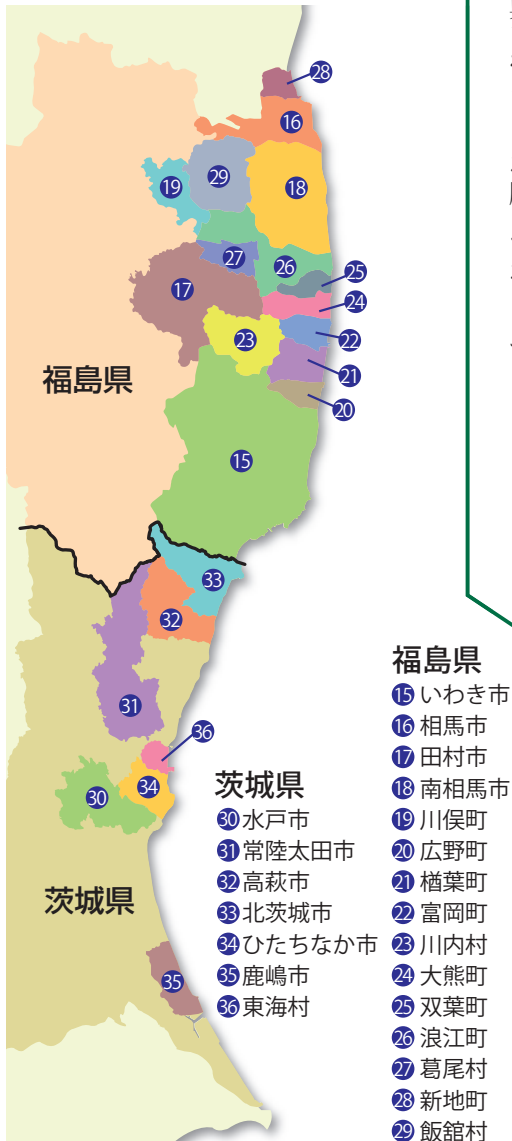
今回お届けした情報誌「電気ふるさと」は、通常、地域振興の情報誌として全国の電源地域にお届けしているものですが、今般の状況に鑑み、被災された電源地域の皆さまを応援する内容にしたいと考えておりましたところ、被災された皆さまに向けて、全国の有志の方々からメッセージを頂戴し、今回の小誌発行に至りました。

あたたかい応援のメッセージを寄稿してくださいました方には、お預かりしたメッセージを被災地の皆さまにお届けいたしましたことを、本誌面をもって、御礼とともにご報告申し上げます。

■電源地域市町村(東北・関東地方太平洋沿岸地域)の主な被災地



電源地域市町村(東北・関東地方太平洋沿岸地域)の主な被災地



平成23年3月11日発生 of 東北地方太平洋沖地震及び東京電力(株)福島第一原子力発電所事故により、被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。報道関係でしか情報はわかりませんが、実情はかなり相当なものと考えております。被災地の方々を想うと、悲しみや辛さは図りられません。

地方にいる私達も、人ごとではなく何かお役に立てればと思っております。

これからまだ、時間が必要とは思いますが、先人が築いたふるさとを、皆さんが早く笑顔を取り戻せるよう、また一日も早く国の全面的支援を願ひ、復興されることを願っております。



北海道 泊村長
牧野 浩臣

このたびの大震災により、亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

刈羽村では、被災者の方々を支援するため、「刈羽村支援対策本部」を設置し、避難者の受け入れや被災地への支援物資の輸送等、最大限の支援をいたしております。

刈羽村は被災地の皆さんと共にあります。

一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。



新潟県 刈羽村長
品田 宏夫

我が国の歴史上でも最大級の東日本大震災の発生により、東北・関東地方の各地に大変な被害がもたらされました。大勢の方々が亡くなられ、いまなお多くの被災者の皆様が厳しい避難生活を余儀なくされています。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を願うものです。

このたびの地震や津波で大切な肉親や家などをなくされた方々、また原子力発電所の事故により着のみ着のまま避難されている方々の心情を思いやると、国を挙げてまたすべての国民が、復興のための支援の手を継続して差し伸べていく必要があります。

私共も、新潟県中越地震の際には、全国から力強く温かい応援をいただき、復興に向けて歩み出すことができました。今回の大震災は、それとは比較にならないほど被害は深刻ですが、被災者の皆様には「必ず復興できる」ということを信じて、いまの厳しい状況を乗り越えていっていただきたいと思っております。

私たちは、ご恩返しのお気持ちも込めて、今回の震災を決して忘れることなく、被災地と被災者の皆様を応援してまいります。



新潟県 柏崎市長
会田 洋



石川県 志賀町長
小泉 勝

かけがえのない家族、思い出のたくさん詰まった家、そして故郷の街並み、数々の大切なものを一瞬にして失ってしまった被災地の皆様を思うと、哀しみで胸がいっぱいになります。

4年前の3月、能登半島地震が発生し、私たちは、日本中の皆様から義援金、救援物資、ボランティアの皆様の活動など、心あたたまる励まし、希望をいただきました。希望は一步を踏み出す勇氣となり、復興へ向けての新たな決意となりました。被災地の皆様の計り知れない不安と哀しみに、日本中が寄り添い、支え合い、人と人との絆を信じ、日本の力を信じ、今、復興への道のりを歩み始めています。「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」の精神に心打たれ、人間の気高さ・勇敢さに感動しています。

私たちにできることは、風評やデマに惑わされない冷静な判断力を持つこと。被災地の皆様を応援し続ける熱い心を持つこと。そして、日本社会や経済の活性化のために、元気なパワーを発信することだと考えています。

今度は私たちが、被災された皆様に、一日でも早く笑顔と元気が戻ってきますよう、そして心の中が希望で満たされますよう、精一杯応援させていただきます。



福井県 敦賀市長
河瀬 一治

この度、東日本大震災にてお亡くなりになられた方々やご遺族には心よりお悔やみ申し上げます。また、全ての被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の未曾有の震災は、地震や津波により甚大な被害をもたらしただけでなく、福島第一原子力発電所における原子力災害を伴ったことから、正に戦後最大の国難であると言えます。特に、福島第一原子力発電所においては、未だに収束の目処が立っていないだけでなく、被災電源地域の皆様が生まれ育った郷里から離れざるを得ない状況に、深く心を痛めていると伺います。

このような中、皆様と同じく立地地域の住民の安心と安全を預かる者として、被災電源地域の復旧と復興に力の限り支援させていただくとともに、全国原子力発電所所在市町村協議会の会長として、今回の事態の収束に向けて、国や原子力事業者に対して強く働きかけていきたいと考えております。

最後に、どんな暗い夜でも明けない夜はないと申しますが、被災電源地域の被災者の皆様が一日も早く復興への歩みを進めることができることを心よりお祈り申し上げます。



福井県 美浜町長
山口 治太郎

3月11日に、東日本大震災が発生し、多くの死傷者や行方不明者が出る甚大な被害が発生しました。今回の震災により、お亡くなりになられた方々と、ご家族の皆様から哀悼の意を表します。

また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

電源立地市町村首長 応援メッセージ

(順不同、敬称略)

搬送や職員の派遣要請があった場合には、積極的に応えていきたいと思えます。

どうか被災された皆様、心を強く持ち、この災害を克服してください。安心して生活が出来るよう一日も早い復興を心から願っております。



福井県 高浜町長
野瀬 豊

このたびの東北地方太平洋沖地震により被害を受けられました皆様方に心よりお見舞い申し上げますとともに犠牲となられた多くの皆様方に謹んで哀悼の意を表します。

日本はもとより、世界各国多くの皆様方から寄せられている有形無形のご尽力により復興に向けた様々な取り組みが進められてはいますが、いまだ不自由な生活を余儀なくされている方も数多くいらっしゃると思えます。

原子力発電所を立地する当町としましても今回の災害は他人事とも思えず、もしも私たちに出来ることがありますたら、遠慮なくお申し付けください。微力ではありますが少しでも皆様のお力になれたらとの想いでおります。

互いに手を取り合い私たち一人ひとりがひとつになって、この未曾有の災害に立ち向かって行きたいと思っております。

災害復旧のためにご尽力されていらっしゃる皆様をはじめ、被災者の方々におかれましては、く

れぐれもご自愛いただき元気で過ごさしになられ、一日も早くこれまで以上に皆様の笑顔が溢れる町に戻られますよう、衷心よりお祈りいたしております。



福井県 おおい町長
時岡 忍

このたびの東日本大震災において被災され、お亡くなりになられた方々にはご冥福を心からお祈りするとともに、被災された方々やご家族をはじめ、関係する皆様から心からお見舞いを申し上げます。現在も避難所において生活されておられる方々や、それをサポートされている方々のご労苦を慮ると、お慰めの言葉もございません。

福島原子力発電所周辺の市町村の皆様におかれましては、復興に向けての道筋もままならないかと存じます。今回の災害は日本全体の国難であり、安全の確保や補償の履行など、原子力行政の今後の方向性については、国・県等関係機関は当然でございしますが、当町をはじめとした原子力発電所立地市町村全体で乗り越えていかなければならぬものと考えております。

当町といたしましても、出来得る限りの支援をさせていただきますので、被災された皆様におかれましては、お気持ち強く持たれ、一日も早く、この苦難を克服されますようお願い申し上げます。

東北地方太平洋沖地震により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

東北・関東地方における地震と津波による未曾有の災害には、改めて自然の脅威・猛威を実感させられました。その一方で、起きてはならない原子力災害は「冷やす」「閉じ込める」ができません、収束のめどがたたないまま経過し、原子力発電所立地地域周辺の皆様が住み慣れた土地を離れて、先の見えない避難生活を余儀なくされている現状には、我がことのように心を痛めております。

今回の震災において、家族・家・財産を失った極限状況の中、人間としての尊厳を持ち続けた皆様の行動は、世界的にも称賛されています。共助の精神による助け合い・支え合いの素晴らしさも伝えられ、同じ日本人として誇りに感じているところでもあります。

復興は険しい道になりますが、国民が丸にならば必ずやこの苦難を乗り越えていけると信じています。

御前崎市としましても、被災された地域に一日も早く、かつての営み・活気が戻りますよう、出来る限りの応援を続けてまいります。前を向いて一緒に頑張りますよう。



静岡県 御前崎市長
石原 茂雄



島根県 松江市長
松浦 正敬

この度の大地震により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。
今回の地震・津波には、自然の脅威をまざまざと見せつけられました。さらに何より、原子力発電所の事故です。

同じ原発立地である当市にとつても他人事ではありません。震災発生以来、女川町や相馬市への物資輸送、被災市町村への職員派遣や、避難者の受け入れなど被災地への支援を行ってまいりましたが、引き続き復興へのサポートを積極的に行いたいと考えています。また、原発の安全対策について、立地自治体に対しても様々な課題が突きつけられています。諸課題にスピード感をもって対応し、市民の安全・安心を確立していきたいと考えています。
国難とも言われる今回の大地震、日本がこのような状況となったのは終戦直後以来だと思います。しかし、私たちはその苦難を乗り越えてきた歴史を持つています。今回も必ずやその団結力で克服できるものと確信しています。今こそ一丸となつて頑張りましょう。



愛媛県 伊方町長
山下 和彦

この度の東日本大震災により被災された皆様からのお見舞い申し上げます。

私たちの想像をはるかに超えた大地震と大津波によりまして、原子力発電所の生命線である非常用電源機能が奪われ、起るはずが無いとされていた原発事故が連鎖発生したことに伴って、周辺地域の皆様が住み慣れた自宅からの避難を余儀なくされている現実を目の当たりにして、原子力発電所の立地地域の長として、大きな衝撃を受けると共に、被災者の皆様の大変厳しい避難生活の現状に強く心を痛めております。

国や関係機関は、事故の早期収束に向けて全力を尽くされると共に、被災された皆さんが一刻も早く自宅に戻って平穏な生活が出来るよう、きめ細かな復興のための支援を積極的に進めて頂くようお願い申し上げます。

被災地の皆様は、今もなお非常に厳しい環境の中で避難生活を送られておりますが、報道においては少しづつ復興への動きが見えて参りました。自らの希望の光を胸に、くれぐれもご自愛下さるようお願い申し上げます、私のメッセージとさせていただきます。



佐賀県 玄海町長
岸本 英雄

今回の東日本大震災は、想像を絶する甚大な被害を東北各県にもたらし、被災地へ派遣した職員からその実態を聞くと、息が詰まる思いであります。

この震災で、お亡くなりになられた方と、そのご遺族の皆さまに対し、謹んでお悔やみを申し上げます。心からご冥福をお祈り申し上げます。

また、被災された皆さま方が、厳しい現状の中で互いに協力して、助け合いながら生活されていることに深い敬意を表します。

私には、被災地の皆さんが困難に立ち向かう気持ちを強く持つて、これからの、復旧、復興に対して立ち止まることのないよう、明日に希望を持つて暮らせる日が、一日でも早くくることを願うしかありません。

同じ被災地にいない私のメッセージなどは、わずかな足しにもならないかもしれませんが、皆さんの

こんな言葉と応援しか出来ませんが、皆さんのことを思いながらいつも祈っています。

過去にあった震災を、何度も乗り越えてきた東北の皆さん、日本中が東北の復興を願っています。みなさんの笑顔が戻るまでがんばってください。

電源立地市町村首長 応援メッセージ

(順不同、敬称略)

※東北・関東地方の太平洋沿岸市町村を除く既設原子力立地地域の首長より応援メッセージを頂きました。

今後におきましても、避難者の受け入れ、本市市営住宅へ避難された皆様への支援金交付をはじめめとして、被災地への物資支援または人的支援など、一日でも早く、被災された皆様の元気を取り戻せるよう、薩摩川内市は復興を願い、全力で支援してまいります。

被災された皆様、いっしょにがんばりましょう。

今回の大震災では、多くの尊い命が失われました。また、11万人を超える方々が今なお避難所で御不便な生活を余儀なくされています。

薩摩川内市では、災害発生後、緊急消防援助隊の派遣による捜索活動や被災地応急給水隊による給水活動、また救援物資の搬送、義援金の送付など、人的・物的支援を行ってまいりました。また、市役所内に「東日本大震災に関する支援対策連絡会」も設置し、全庁体制で被災された皆様を支援することとしております。

このたびの東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、甚大な被害を受けた被災地の皆様に関心からお見舞いを申し上げます。



鹿児島県 薩摩川内市長
岩切 秀雄

■ 電源地域市町村の被害状況(東北・関東太平洋沿岸地域の死者・行方不明者・原子力発電所の事故による避難者等の被災地のみ)

市町村	死者(人) ※1	行方不明者(人) ※1	重軽傷者(人) ※1	避難者(人) ※2	浸水範囲面積(km ²) ※3	推定浸水域にかかる人口(人) ※4	推定浸水域にかかる世帯(世帯) ※4	全壊住家(棟) ※1	半壊住家(棟) ※1	一部破損住家(棟) ※1
青森県										
八戸市	1	1	17		9	5,229	1,760	225	941	
三沢市	2		1		6	1,924	589	19	19	26
岩手県										
宮古市	412	355	33	2,423	10	18,378	7,209	3,669	1,006	176
岩泉町	7			200	1	1,137	431	177	20	5
宮城県										
石巻市	2,964	2,770	調査中	8,776	73	112,276	42,157	28,000	調査中	調査中
塩竈市	21	1	10	106	6	18,718	6,973	358	1,390	325
白石市	1		18	33				32	225	851
名取市	901	145	調査中	869	27	12,155	3,974	調査中	調査中	調査中
多賀城市	186	4	調査中	843	6	17,144	6,648	1,500	3,000	調査中
大崎市	4		160	1,071				205	212	3,769
亘理町	254	16	44	1,071	35	14,080	4,196	2,051	543	114
山元町	669	78	90	891	24	8,990	2,913	2,058	788	978
七ヶ浜町	65	11	調査中	699	5	9,149	2,751	調査中	調査中	調査中
女川町	473	620	2	1,454	3	8,048	3,155	3,021	46	86
福島県										
いわき市	303	82	4	968	15	32,520	11,345	程度不明15,463棟		
相馬市	424	33	71	864	29	10,436	3,076	1,120	392	
田村市	1		5	1,699				1		
南相馬市	540	225	59	19,972	39	13,377	3,720	4,682	975	
川俣町				744				28	12	253
広野町	2	1		5,480	2	1,385	444	444	102	38
楢葉町	12	2	5	8,042	3	1,746	543	50		
富岡町	7	12		15,480	1	1,401	552			
川内村			1	2,780						20
大熊町	37	7		11,507	2	1,127	359	359	30	
双葉町	25	10	1	7,122	3	1,278	402			
浪江町	50	136		21,362	6	3,356	1,006			
葛尾村	4	1		1,527						
新地町	93	21	3	163	11	4,666	1,400	548		
飯館村	1		1	1,181						
茨城県										
水戸市	2		81	23	1	1,209	379	110	323	16,211
常陸太田市	1		2					92	762	2,173
高萩市	1		19		1	1,519	596	95	555	2,849
北茨城市	5	1	188		3	7,212	2,725	206	957	3,452
ひたちなか市	2		26		3	5,616	2,049	67	361	2,487
鹿嶋市	1				3	3,794	1,163	129	330	2,567
東海村	4		5		3	2,172	748	16	33	875

※1 消防庁災害対策本部(5月19日現在) ※2 各県ホームページ ※3 国土地理院(4月18日公表) ※4 総務省統計局(4月25日公表)

地域振興学識経験者・関係者 応援メッセージ

(順不同、敬称略)



科学ジャーナリスト
中村 浩美

一日も早い震災からの復興と、福島第一の事態収束を心から願っています。皆さんが被災された被害の中でも、憤りを覚えるのが風評被害です。電源地域への無理解、敬意と感謝の念を欠いた消費地の傲慢無礼は許せません。「電気のふるさと」の重要性や、地域の皆さんの想いを、正確な情報と共に伝え続けることが大切だと痛感しています。微力ではありますが、これからも理解活動の一翼を担わせていただくつもりです。頑張ってください。



横浜商科大学教授
羽田 耕治

今回の震災、被災地の皆さま方、悲しみの中にも責任感と使命感で復興へ向けた取り組みに励んでいらっしゃると思います。そんな姿に感銘し、目頭が熱くなったことも多々あります。私のような域外の人間であっても、何をすればお役に立てるか、いつも考え、できることは実践しています。皆さま、どうか希望を持って、前を向いて、新しい地域づくりに励んで下さい。応援は惜しみません。



(株)いろどり
代表取締役 横石 知二

私の大好きな『二宮尊徳』の言葉に『人は、とかく小さいことをいやがって大きな事をしたがるが、本来、大は小が積もったものだ。だから小を積んで大をなすよりほかに方法はないのだ』という名言がある。上勝も小さなことをこつこつと積み上げてきた。まずは、自分にできることから始めていこう。小さなことを作りあげる大切さと、つながることの大切さをみんなで広げていこう。



富士市産業支援センター f-Biz
センター長 小出 宗昭

被災した中小企業を対象とする事業相談会が5月3日～5日に宮城県仙台市で実施され、現地の要請を受け、企業支援家としてボランティアさせていただく機会がありました。3日間で17社の経営者の皆様方とお会いしましたが、被害や精神的ダメージの大きさから、自社や自身のことを見失っているという印象を強く受けました。状況を冷静に分析し、具体的な可能性を探り当てるお手伝いをさせていただきました。皆様は今一度再生に向け全力を尽くしますと決意され、行動に移し始めました。東日本復興のために、私たちも全力で応援します。がんばりましょう。



やねだん(柳谷自治公民館)
館長 豊重 哲郎

何と「エール」を届けたらいいのか、言葉すらでないあまりにも、悲惨な大震災と原発事故。やねだんは早速福島県からの避難者3家族10人を古民家迎賓館8号館に住民総出で受け入れました。また、鹿屋市やねだん号を仙台市東北関東大震災・共同支援ネットワーク事務局に軽ワゴン車を届けました。被災孤児や子ども達の教育的配慮車として活用してもらい、青少年におおなる学ぶ勇気と円満な輪づくりにとの願いを込めて…。



(有)五十嵐ソーシャルマーケティング
代表取締役 五十嵐 宣子

被災された約80市町村の電源地域の方々に、心よりお見舞い申し上げます。それぞれに事情は異なると思いますが、一から町づくりを考えなければならなくなった地域の方には、こう申し上げたいです。この逆境は、全てを変えるチャンスにもなります。再生計画に当たっては、先にハードを考えるのではなく、何を柱に町を活性化させるかについてじっくり戦略を練って下さい。それが成功すれば、これまでの様々な課題も解決され、競争力ある新たな町への再生につながるはずです。



東京海洋大学海洋科学部教授
婁 小波

「日本は必ず再び元気になる、被災地域の復興・水産業の復興は必ず成し遂げられる、ふるさとの素晴らしい自然や魅力的な伝統・文化が必ずや魅了、人々の豊かなくらしは復活する」。近い将来、そうなることを心より祈願しつつ、そのための小さな努力を積み重ねていきたいと思っています。何よりも、今後より確実かつ安全な仕組みづくりにもとづく新たな安全・安心社会の構築を目指したいものです。



NPO法人 結まるプラス
理事長 かわべ まゆみ

どれほどの悲しみ、苦しみ、恐ろしさ、つらさ、痛み、虚しさ、憤り、寂しさ、そして絶望感をお感じになった事でしょう。私たちも共に泣き、祈りました。でも桜の季節、東北に向かい、瓦礫が残る街角に立った時、足の裏にふつふつと湧きあがる新たな創造のエネルギーを、夢と希望を感じました。そして確信したのです。この絶望の先には素晴らしい未来が待っていて、その未来は日本人の誇りとなり、世界の人たちの勇気となることを。